

復活と洗礼に向かって

松永 敦 神父

四旬節第1主日に姫路教会では洗礼志願式がありました。ホームページに載せる為に、ひとりの志願者の方が感想を書いてくださったのですが、承諾を得たうえで、転載させていただきます。

私は今回、洗礼志願式を受けて、とっても貴重な体験だったと思いました。最初の「復活徹夜祭に洗礼を受けることを決心された」というところで、改めて、身が引きしまる思いがありました。自分の中では、今まであまり意識していなかったこと、していたことを再認識することができてよかったなと思いました。でもまだまだこれからいっぱい勉強していこうと思いました。それぞれの思いが胸の中にあってこれからもこの体験を忘れていかないようにずっと心の中においておこうと思いました。今回改めて神様の祝福と恵みはとっても豊かですばらしいものだと思います。これからも勉強をがんばっていきたいと思いました。

皆さんは洗礼を受けた時の喜びを覚えていらっしゃるでしょうか。また、その喜びとともに受洗の際に決意したことを思い起こすことはあるでしょうか。洗礼は古い自分に死んで、新たな自分を生きる決意表明です。最近、ある雑誌に「記憶」についての記事が載っていました。記憶力のカギは、心に浮かぶままに自由に連想していくことと何度も引き出すことだそうです。そうすると記憶が定着するのだそうです。たとえば、やみくもに参考書を読むよりは何度も問題集を解く方が良いということです。信仰を生きる私たちも度々イエスの記憶や受洗の喜びと決意を思い起こす必要があります。忘れるのではなく、思い起こし、記憶することがそれぞれの信仰生活を深めていきます。

洗礼は今、ほとんどの教会では頭に水を注ぐという形式で行いますが、元々は体全体を水の中に沈めていました。そして、この形式の方が洗礼の本来の意味をよく表しています。この場合の洗礼は水に浸かり、また水から上がるという2つの動作から構成されています。この水に浸かり、上がるという2つの動作は、それぞれ死と再生を表しています。自然界では、まず誕生があって、それから死があります。しかし洗礼はその反対にまず私達の死ぬべき命を破壊する死があって、それから聖霊によってその死を超えた新たな生命に生まれます。復活祭まであとわずか。ご復活を迎えるのにふさわしい準備をしましょ